

# 令和7年度 東京の農業振興に向けた専門懇談会（第1回）

## 次第

日 時 : 令和7年7月31日（木）  
16時00分～17時30分  
場 所 : 都庁第一本庁舎7階大会議室

### 1 開会

### 2 知事挨拶

### 3 出席者紹介

### 4 議事

#### （1）プレゼンターによる発表

東京農工大学 学長 千葉 一裕 氏

#### （2）質疑応答

#### （3）意見交換

議題 東京の農業振興に向けた振興施策等について

#### （4）その他

### 5 閉会

## 東京の農業振興に向けた専門懇談会 委員名簿

(五十音順・敬称略)

| 所属等                                                                                       | 氏 名                |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| アイ・プラス株式会社 代表取締役                                                                          | かわの あい<br>河野 愛     |
| 株式会社三菱総合研究所 主席研究員<br>九州大学未来社会デザイン統括本部 ディレクター・客員教授<br>千葉大学 大学院園芸学研究院 客員教授<br>新潟食料農業大学 客員教授 | きづき せいいち<br>木附 誠一  |
| Eight Roads Ventures Japan Vice President                                                 | こうやま みちこ<br>公山 倫子  |
| JA 東京むさし本店 指導経済部 指導課 課長                                                                   | なかむら かずや<br>中村 和也  |
| 国分寺中村農園                                                                                   | なかむら かつゆき<br>中村 克之 |

## 東京の農業振興に向けた専門懇談会 アドバイザー

| 所属等                 | 氏 名             |
|---------------------|-----------------|
| 株式会社ネイバーズファーム 代表取締役 | うめむら けい<br>梅村 桂 |

## 東京の農業振興に向けた専門懇談会 プレゼンター（基調講演）

| 所属等       | 氏 名              |
|-----------|------------------|
| 東京農工大学 学長 | ちば かずひろ<br>千葉 一裕 |

令和7年度 東京の農業振興に向けた専門懇談会 座席表

取材位置

「アレゼンター」  
東京農工大学 学長  
千葉 一裕 氏  
ちば かずひろ

Eight・Roads Ventures Japan  
vice President  
公山 倫子 委員  
こうやま みちこ

J A 東京むさし本店  
指導經濟部 指導課 課長  
中村 和也 委員  
なかむら かずや

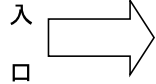
国分寺中村農園  
中村 克之 委員  
なかむら かつゆき

アイ・プラス株式会社  
代表取締役  
河野 愛 委員  
かわの あい

東京都知事  
小池 百合子

【座長】  
株式会社三菱総合研究所  
主席研究員  
木附 誠一 委員  
きづき せいいち

「アドバイザー」  
株式会社ネイバーズファーム  
代表取締役  
梅村 桂 氏  
うめむら けい



# 東京の農業振興に向けた 専門懇談会 (第1回)

令和7年7月31日

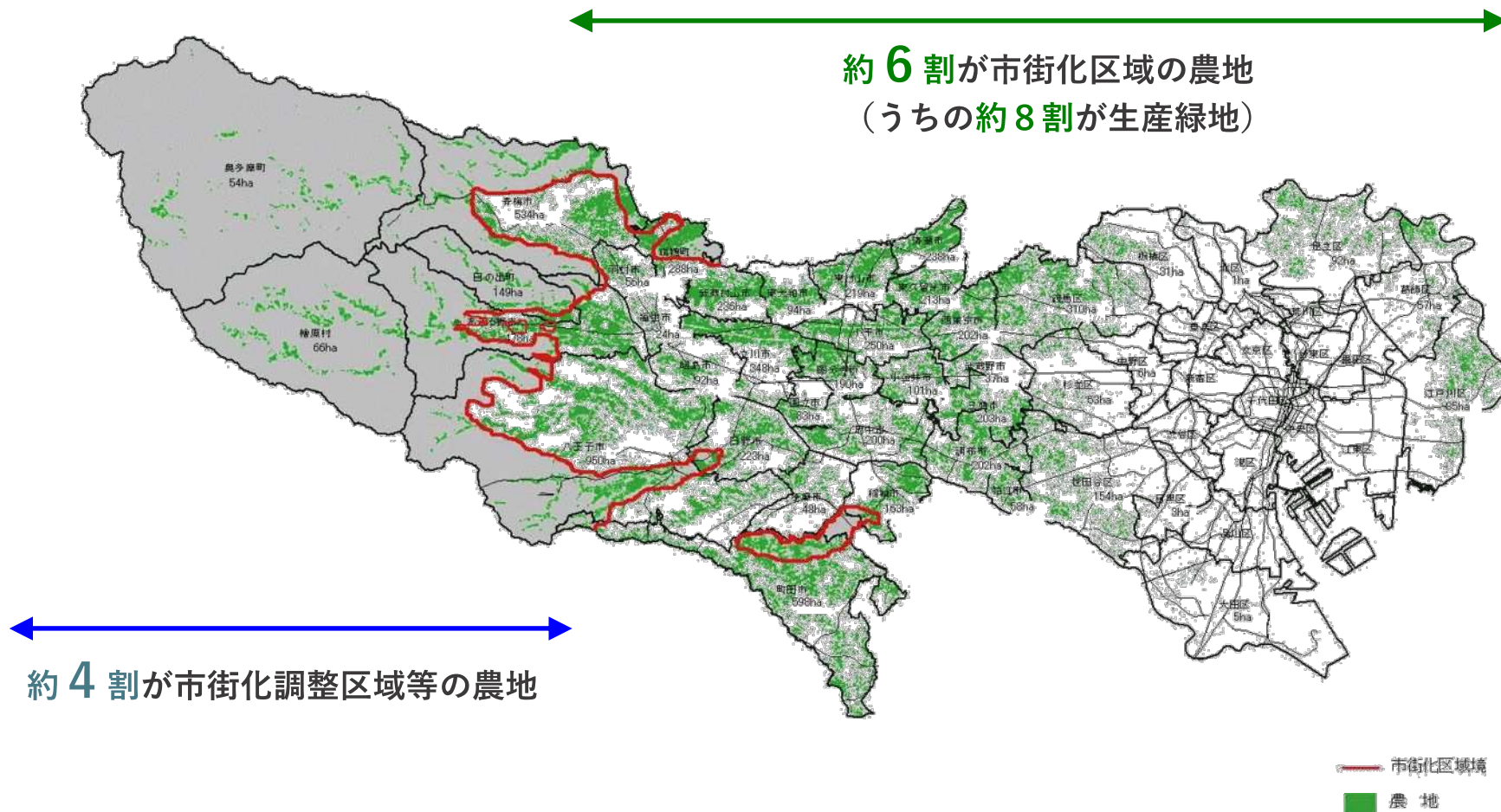
# 01. 東京の農業について

- 1 東京の農地
- 2 東京の農家数
- 3 農業算出額と出荷先



# 1 東京の農地

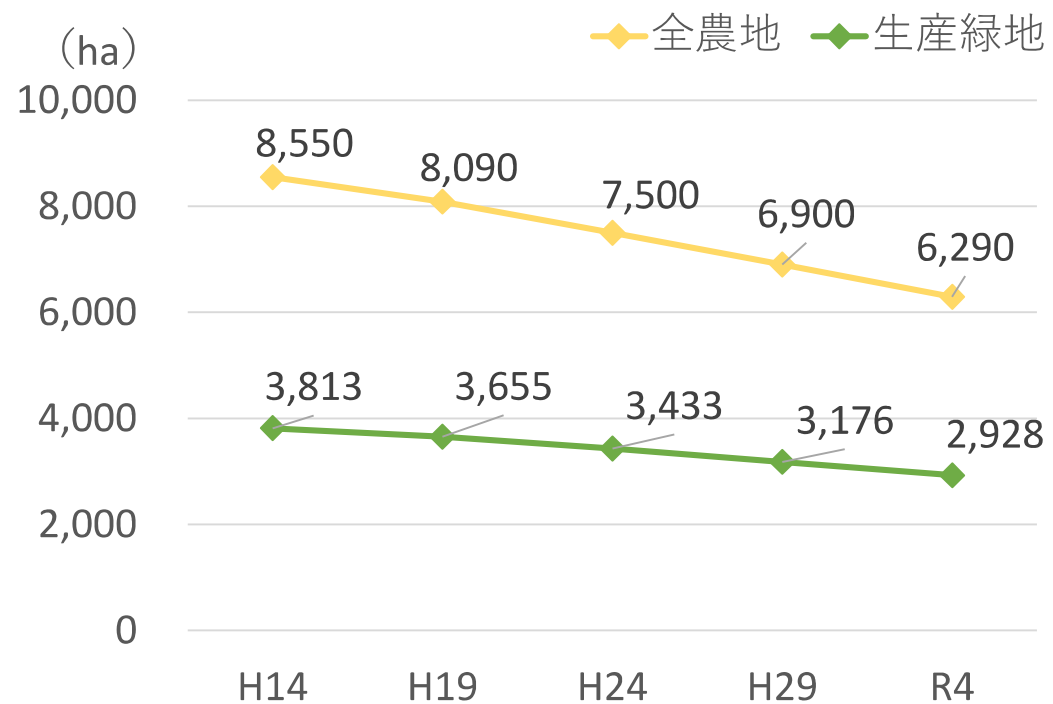
- 東京には多摩から区部、島しょ地域まで**約6,000haの農地**が広がる
- そのうち**約 6 割**が**市街化区域**に、**約 4 割**が**市街化調整区域**に存在
- 市街化区域の農地の**約 8 割**が**生産緑地**に指定され、都市の貴重な緑として保全



# 1 東京の農地

- 東京の農地は毎年、約100ha減少
- 市街化区域は開発圧力が高く、相続を契機に農地は小型化、分散化

■ 農地面積の推移



出展：農林水産省「耕地及び作付面積統計」

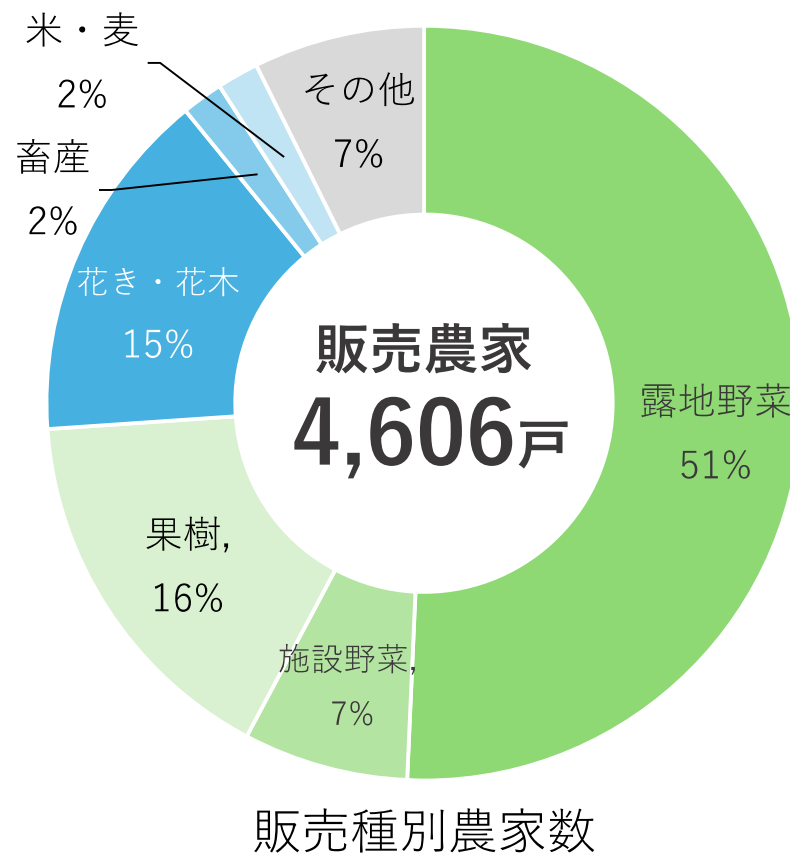
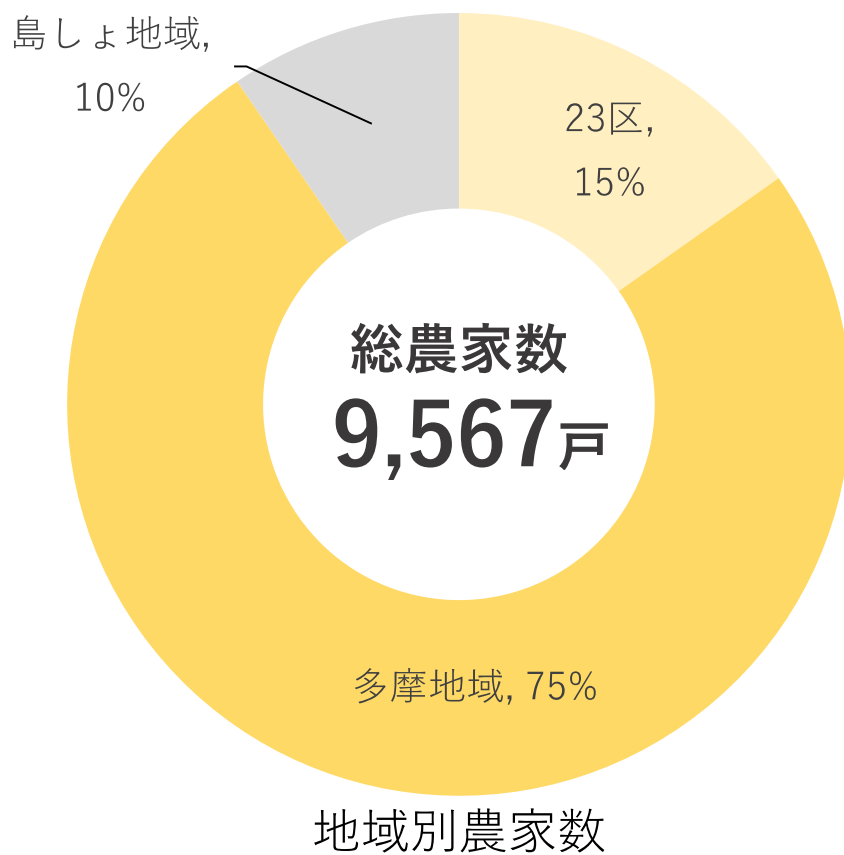
市街化区域の農地



練馬区大泉学園地区

## 2 東京の農家数

- 東京の**総農家数**は**9,567戸**で、約半数の**4,606戸**が**販売農家**
- 地域別では**23区内**：700戸、**多摩地域**：3,465戸、**島しょ地域**：441戸
- 約**6割**が**野菜類**を生産し、**作付面積**では**コマツナ**、**産出額**では**トマト**が最も多い



| 作付面積順位（野菜・延べ・ha） |        |        |
|------------------|--------|--------|
| 1                | コマツナ   | 380 ha |
| 2                | ホウレンソウ | 257 ha |
| 3                | バレイショ  | 246 ha |
|                  | ダイコン   | 210 ha |
|                  | キャベツ   | 198 ha |

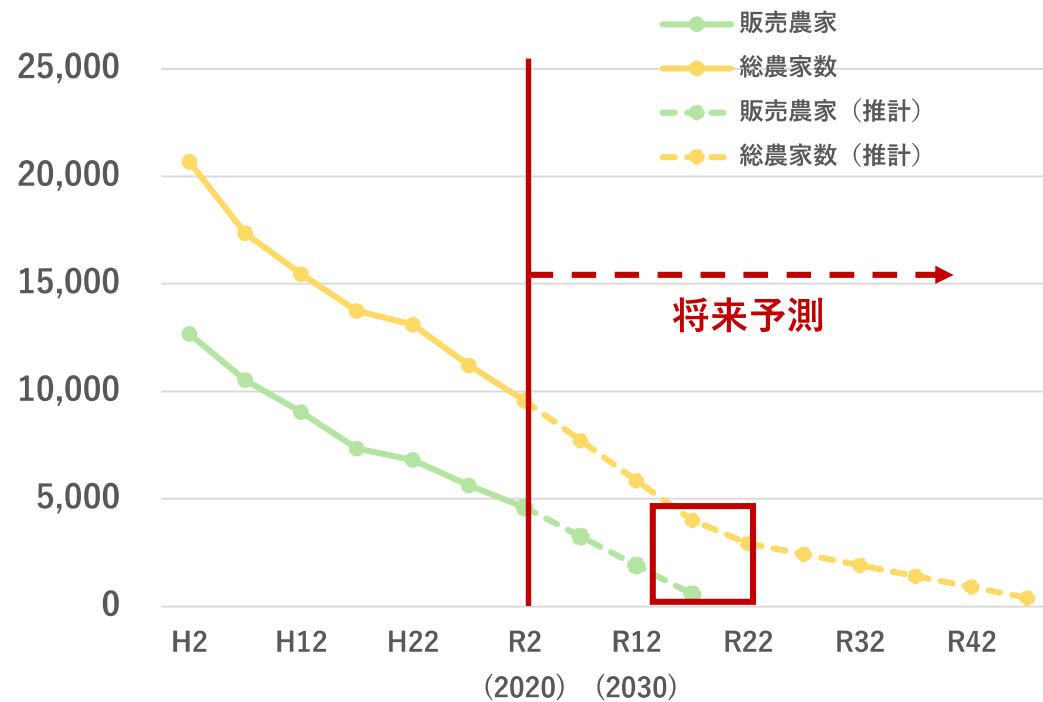
| 農業産出額順位 |                  |     |
|---------|------------------|-----|
| 1       | トマト              | 11% |
| 2       | コマツナ             | 7%  |
| 3       | ナシ               | 6%  |
|         | ナス               | 4%  |
|         | フェニックス・ロベレニー（切葉） | 4%  |



## 2 東京の農家数

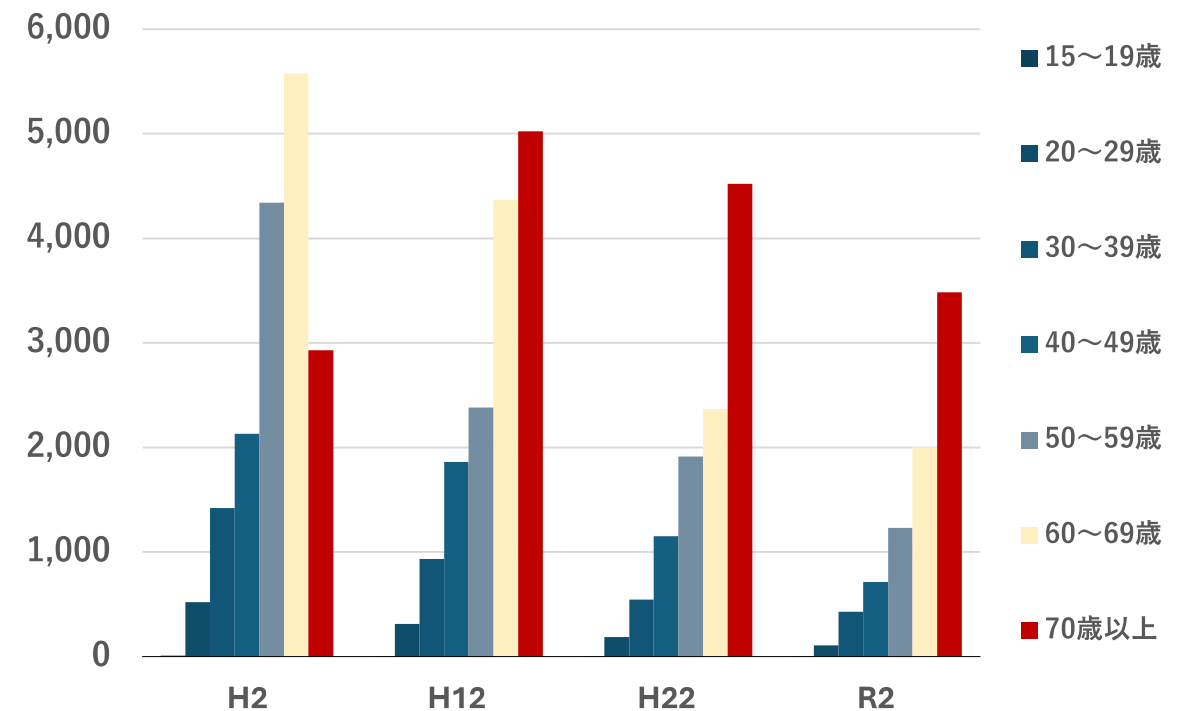
- 東京の農家数は右肩下がりが続けており、令和2年に1万戸を割り込む
- 年代別では70歳以上の割合が大きく、減少速度は急速に進む可能性

■ 農家数の推移



参考：農林水産センサス

■ 年代別基幹的農業従事者数推移



参考：農林水産センサス

### 3 東京の農業算出額と出荷先

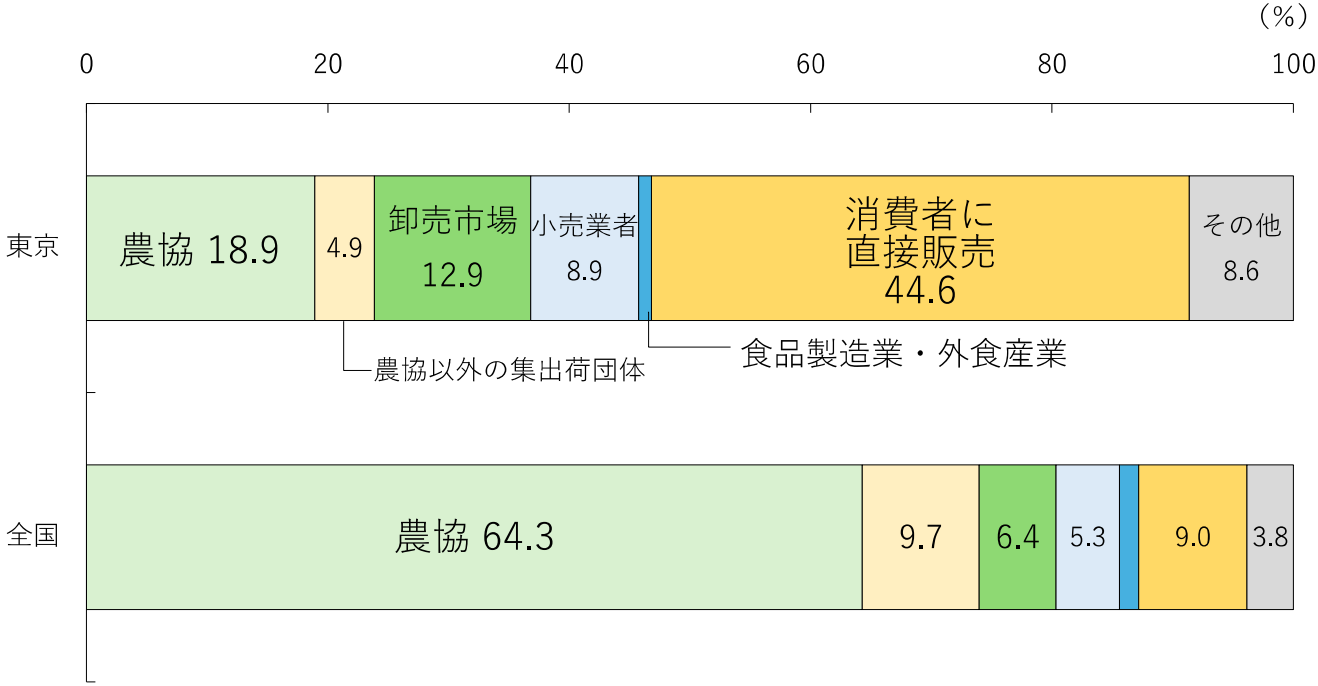
- 近年の東京の農業産出額は**200～250億円程度**で緩やかな**右肩下がり**が続いている
- 東京の農産物は全国に比べ、**消費者に直接販売**するケースが多い

■ 農業産出額の推移



出展：東京農林水産統計年報・関東農林水産統計年報 生産農業所得統計

■ 農産物出荷先別形態数構成比（東京・全国 R2年）



注 農産物販売金額第1位の出荷先。農産物販売のあった経営体を対象。  
資料 農林水産省「2020年農林業センサス」

# 現状と対応の方向性

## 1 東京の農地

- 東京には約6,000haの農地が存在も、相続を契機に毎年約100ha減少

## 2 東京の農家数

- 東京には約1万戸の農家があるが、今後急速に減少の可能性

## 3 農業算出額と出荷先

- 東京の農業産出額は200～250億円程度で近年は右肩下がり

こういった課題を打開し、持続可能な東京農業を実現するためには、これまでにない視点で課題の解決に臨んでいく必要がある。

スタートアップ

消費者

企業

持続可能な東京農業の実現

テック系企業

農業法人

大規模化

## 02. 意見交換のテーマ

- 1 生産性の向上と流通の円滑化  
～スタートアップ、アグリテック系企業など、異分野から農業分野への参入促進～
- 2 力強い農業経営体の育成  
～法人化、農業法人の育成による農業の大規模化～
- 3 消費者や企業と連携した新しい東京農業の展開



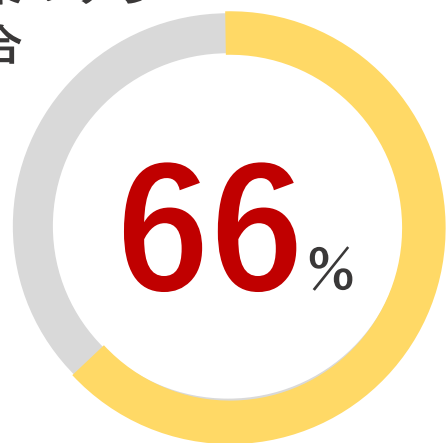


# 1 生産性の向上と流通の円滑化

## 現状

- AI などテクノロジーは急速に進展
- 全国各地でスタートアップの柔軟な発想が農業分野へ参入
- 東京都内にはスタートアップ企業が集積しているが、農業分野での活用は限定的

## ■ 国内スタートアップ企業のうち 東京都内に所在する割合



参考：株式会社ひろぎんホールディングス経済産業調査部作成資料

## スタートアップが開発したAIロボット



トマト自動収穫機



収穫等作業補助機

## 課題

- ✓ スタートアップ等、新たなプレイヤーの参入を促進し、東京農業の高度化・省力化を推進

# 1 生産性の向上と流通の円滑化

## 現状

- 少量多品目の生産が主流のため、庭先や共同直売所等で農業者自らが販売する割合が高い
- 直売中心の流通のため、消費者の多い都心部への東京産農産物の供給が不十分

### 都内直売所

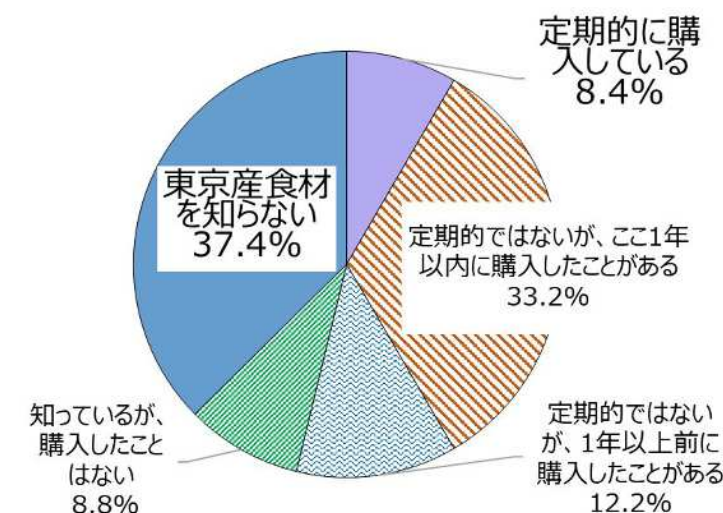


秋川ファーマーズセンター

### ■ 都内農業者の出荷内訳



### ■ 東京産食材の購入状況・認知度



## 課題

- ✓ 東京産の強みである近距離、鮮度の保持を生かした流通ルートと販売チャネルの多様化

## 2 力強い農業経営体の育成

### 現状

- 多摩西部の市街化調整区域に**大規模な農地が存在**
- 東京の農地の大半は、個人により管理されているが、法人は個人の5倍の面積の農地を管理

市街化調整区域の農地

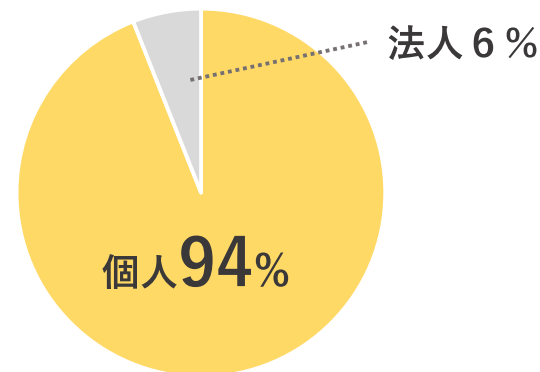


- ✓ 区画の大きな農地が多いが、管理が不十分
- ✓ 農地が散見され、活用の余地が大きい

### 課題

- ✓ 広い農地の**担い手となる農業法人**の育成・支援

東京における農地の  
管理主体割合(面積ベース)



1 経営体あたりの農地面積



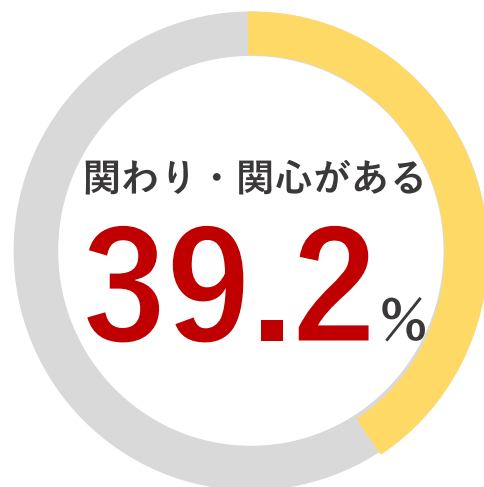


### 3 消費者や企業と連携した新しい東京農業の展開

#### 現状

- 農的活動や環境活動における**都民ニーズの高まり**
- 都市部ではビルの屋上等を活用した農園、アーバンファーマリングが見られ、多くの都民が利用

#### ■ 都市住民の市民農園や農業体験等への関与意向



資料：農林水産省「都市農業に関する意向調査」(R6.11)

#### 課題

- ✓ 都民の「農」への意識の高まりを**都市農業の活性化**に繋げる仕組みの構築



屋上庭園  
The Edible Park OTEMACHI by grow



### 3 消費者や企業と連携した新しい東京農業の展開

#### 現状

- 農業体験活動を社員研修や福利厚生プログラムに取り入れる企業が増加傾向
- 一部の農家では、農産物の生産・販売に加えて社会課題の解決に繋がる農業経営を実践

#### 企業による農業へのニーズ（社員研修、福利厚生など）



出典：株式会社大治千菜一遇農en

#### 課題

- ✓ 都市農業・農地に対する企業ニーズを都市農業の収益性の向上に繋げるシステムの整備

#### 企業の農業ビジネス市場規模の推移と予測

